

TKU LIBRARY NEWS

vol.
3

2014
Autumn

図書部がより
リニューアル特大号

Contents

秋の読書特集

- pp.1-2 読書の秋
- p.3 食欲の秋
- p.4 芸術の秋
- p.5 スポーツの秋
- p.6 経営学部 50周年連動企画展

東京経済大学
図書部



秋の読書特集「読書の秋」 堺学長インタビュー

堺 憲一（さかい けんいち）学長・経済学部教授

名古屋大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学。
経済学博士号を取得。専攻は近現代イタリア経済史。
社会経済史学会、政治経済学・経済史学会、経営史学会に所属。

経済小説の書評・評論を多数手掛けている堺学長に、東経大生の皆さんへ お勧めしたい本や、読書の醍醐味についてインタビューしました！

図書部（以下、図）「では、さっそくですが、学生のみなさんにお勧めの本を教えてくださいませんか？」

学長（以下、学）「わかりました。まず1冊目は有川浩さんの『フリーター、家を買う。』です。」

図「なぜその本がおすすめなのでしょう？」

学「この作品の良いところは3点あります。1つ目は、等身大のごく普通の青年が主人公だという点です。2つ目は、この本はその業界の仕事がわかる『お仕事小説』として、土木会社がどういったものかわかりますし、仕事のやりがいやモチベーションを維持しながら働くということがどういうことなのかを発見できるという点です。3つ目は、登場する少年・少女が困難を乗り越えていく成長物語であるという点です。また、この本では就職をする際の心構えといったものも出てくるので、これから社会に出る学生のみなさんに1番お勧めの本だと思います。」

図「確かに、そういった心構えはなかなか知ることのできないものではありますよね。」

学「2冊目は、福澤徹三さんの『東京難民』です。この作品は映画にもなっているので、知っている方もいるかもしれませんね。これは、ある大学生が、父親が学費を払えなくなったことで、格差社会における過酷な労働に従事することになる話です。この話を通して、日常的に大変なことがあっても、勉強できる環境に自分がいるという有り難さがよくわかると思うのでお勧めですね。」

図「なるほど。ところで学長はお忙しいと思うのですが、いつ読書をされますか？」

学「4月に学長職に就いてからは忙しくてあまり読んでいないのですが、その前は仕事の本を読む間に経済小説を読んでいました。主に電車の中で読んでいたのですが、乗り過ごしてしまうことが多かったので、最近では降りる駅の一駅手前で本を閉じるようにしています。」

図「息抜きといった形で、経済小説は読まれていたのですか？」

学「そうですね。息抜きで読んでいたのですが、学長として大学行政に携わるようになって、経済小説での手法や発想が参考になっています。」

図「好きで読んでいたものが、お仕事でも役に立つようになったということですか？」

学「そうです。」

図「最後に、学長にとって読書とはどのようなものが教えてください。」

学「私は、本を好きになるということは人生を豊かにするものだと思いますし、読書は人生を楽しむ1つのツールであると思います。」

図「私も読書を通して、人生を豊かにしていきたいと思います。本日はお忙しい中、取材にに応じてくださり、ありがとうございました。」

（執筆・インタビュアー 経営学部3年 小島一美さん）

●堺学長の主なご著書（全て図書館に所蔵）

『近代イタリア農業の史的展開』名古屋大学出版会／『日本経済のドラマ 経済小説で読み解く 1945-2000』東洋経済新報社／『新版 あなたが歴史と出会うとき-経済の視点から』名古屋大学出版会／『この経済小説がおもしろい！』ダイヤモンド社／『だんぜんおもしろいクルマの歴史』NTT 出版

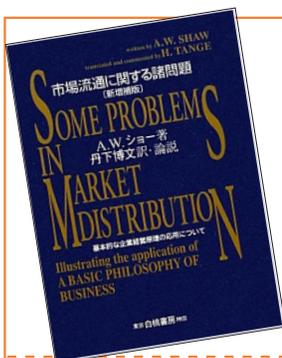


堺学長は、学長ブログ「進一層だより」を連載中。課外活動や講演会などのイベント紹介を通して、東経大生の皆さんに、進一層の精神=チャレンジすることの大事さを発信しています。詳しくは、本学サイトの一番下にある学長の顔写真（アイコン）をクリック or タッチ！

秋の読書特集 「読書の秋」

若手教職員・学生のオススメ本

読書好きの皆さんより、小説から社会問題の本、学術書まで幅広いジャンルの本を紹介してもらいました！



経営学部 准教授 森岡 耕作 (もりおか こうさく) 先生

A. W. ショー 『市場流通に関する諸問題』 白桃書房

今回ご紹介するのは、A. W. ショー『市場流通に関する諸問題』（白桃書房）です。私の専門である「マーケティング論」という分野はこの本をきっかけに生まれました。100年前に書かれたにもかかわらず、現在でも十分に通用する考え方・概念で溢れています。ショーの偉大さを痛感するとともに、「100年経ってもその程度しか進んだらんのか！」と現在を生きるマーケティング研究者としてプレッシャーを感じる一冊です。【3階43-48番書架に所蔵】

コミュニケーション学部 専任講師 松永 智子 (まつなが ともこ) 先生

猪瀬直樹 『こころの王国-菊池寛と文藝春秋の誕生』 文春文庫

「先生とわたし」。本書では、家族愛とも恋愛とも友情とも異なる、師弟の親密な関係が「わたし」の心象として描かれます。「わたし」は、文豪・菊池寛の秘書を務める女学校出のモダン・ガール。先生と想い人との間で揺れる「わたし」の心、その中に佇む昭和初期のモダン都市東京を、ぜひ辿ってみてください。秋の夜長には、ジュンパ・ラヒリ『停電の夜に』（新潮社）、永田和宏『近代秀歌』（岩波新書）も合わせてオススメ。【1階課外図書に所蔵】



学生課 職員 網中 真志 (あみなか まさし) さん

有吉佐和子 『悪女について』 新潮文庫

女性実業家・富小路公子が原因不明の転落死でこの世を去った。その原因と公子がどんな人物だったのかを、関係者27人に聞き取る、インタビュー形式で進むフィクションである。公子は利己的な悪女だったのか、美しいものを愛する優しい女だったのか、27人の証言はそれぞれ異なる。見る人、会う人によって人物の印象は変わる。そもそも、本質を捉えることは出来ないのかもしれないと思わせる一冊。【1階課外図書に所蔵】

コミュニケーション学部2年 秋葉 成美 (あきば なるみ) さん

朝井リョウ 『何者』 新潮社

就活とTwitter、この2つの要素を織り込んだ今時な小説。特に、Twitterに投稿する側と、それを見る側の両方の視点がリアルに感じられる。（ところどころ私自身にも当てはまり、心がチクチクと痛む。）SNSをやっている人は、自身が発信する内容や、それが見る側にどう思われるかを考えるきっかけになるかもしれない。【1階課外図書に所蔵】



経営学部4年 郷野 勇仁 (ごうの たけひと) さん

岩田健太郎 『「リスク」の食べ方—食の安全・安心を考える』 ちくま新書

本書は、ユッケによる大腸菌感染症事件、トクホの実態、健康増進を謳う本の検証、放射能が食べ物にもたらす影響など様々な事例の検討を通して、食に対する「リスク」や「安全・安心」の在り方を問い直すものである。どんな食べ物でも（たとえ薬であっても）二面性、リスクがあることを承知の上でそれに対峙していかなければならないこと、そして「安心」の過度な追求が実は「安全」を壊してしまうことを意識するきっかけになる一冊だ。【1階新書文庫8-18番書架に所蔵】

ちょっと
豆知識

今回の推薦本コーナーでは2名の学生さんにご登場いただきましたが、TKU図書部では、「本が大好き」「本について人と話すのが好き」という学生さん達の交流・活躍の場をたくさん用意しています。詳細は裏表紙の「イベント案内」や「図書部サポーター募集！」のコーナーをご覧ください。

2

秋の読書特集 「食欲の秋」

大岡 玲 図書館長 「おなかがすく本の読み方」

大岡 玲（おおおか あきら）図書館長・経営学部教授

教養講義科目「日本文学Ⅱ（現代文学）」ほか担当。
東京外国語大学大学院外国語研究科ロマンス系言語専修修士課程修了。
1987年『緑なす眠りの丘で』で作家デビュー。『黄昏のストーム・シーディング』で三島由紀夫賞を、『表層生活』で芥川賞を受賞。

本学の図書館長・教授であり、芥川賞・三島由紀夫賞作家でもある大岡先生に、「食と文学の深い関係」についてご執筆いただきました

食べものと物語には、切っても切れない強い結びつきがある。旧約聖書には、この世で最初の人間アダムとイブが、絶対に食べちゃイカン、と神さまに禁じられていた知恵の木の実を食べて、地上の楽園から追放される話がでてくるし、ヘンゼルとグレーテルは、お菓子の家に惹きよせられたせいで、魔女にコワ〜目にあわされる。

日本の民話でも、猿と犬とキジは、桃太郎が持っているきび団子に釣られたばかりに、鬼退治なんていうきわめてリスクな仕事をおしつけられるのだ。食べものをねだる時には、慎重な姿勢が必要だという教訓である。

神話や民話だけでなく近代の小説でも、食べものは重要な小道具になったり、象徴的な役割をあたえられたり、ずいぶん活躍している。たとえば、夏目漱石の『坊っちゃん』。主人公の「坊っちゃん」は、四国の中学校に数学教師として赴任するのだが、むやみに江戸っ子風を吹かせるせいもあって、学生とはソリが合わない。

その関係を一層悪化させたのが、「天麩羅蕎麦」と「団子」である。散歩の途中で見つけた蕎麦屋で「天麩羅蕎麦」を四杯も食べた「坊っちゃん」は、目撃していた生徒に翌日「天麩羅先生」というアダ名をつけられて激怒。さらに後日、「旨いと評判の団子」を二皿食べたのをスパイされて、完全にキレちゃうのである。

食べるという必要不可欠で、しかも快樂をとまなう行為を、他人に揶揄されたり馬鹿にされたりするのは、誰にとっても気持ちのいいものではない。「坊っちゃん」の周囲への嫌悪感を高めるために、漱石はそのあたりを実にうまく使っているのだ。

ほかにも、同僚の「山嵐」におごられた「氷水」とか、敵役の「赤シャツ」「野だ」をこらしめる武器に、「生卵」を使う（これには、ふか〜い意味があるのですが、あえてここでは触れません）とか、漱石先生の「食べものの使用法」は、見事である。

こういう風に、食べものを切り口に小説を読むのは、なかなか楽しい経験になる。志賀直哉はこってりした洋食が大好きな食いしん坊だったのに、なぜ凝った食の描写をしなかったのか。島崎藤村の食べものの描写は、どうしてあんなにまずそうなのか。バルザックは？ドストエフスキーは？と、どんどん探っていくと、思いがけない発見があるかもしれない。ただし欠点があって、こうやって本を読むと、すごくおなかがすくのだ。本の読みすぎはいいけれど、食べ過ぎにはくれぐれもご注意のほどを。

●大岡先生の「食」に関するご著書（全て図書館に所蔵）
『ワインという物語：聖書、神話、文学をワインでよむ』文藝春秋
『食味形容語辞典』平凡社
『塩の味』集英社
『旅ゆけば、酒』日本経済新聞社
『文豪たちの釣旅』フライの雑誌社

3

ちょっと
豆知識

図書館1階のブックウォールでは大岡図書館長の推薦本展示企画を開催中！日本文学と外国文学の2つのコーナーに分けて、名著やベストセラーから、ちょっぴり大人向けのマニアックな本まで、幅広く紹介されています。秋の夜長に、長編大作にチャレンジしてみてくださいはいかが？

秋の読書特集 「芸術の秋」

徐 京植 教授 「自由な精神の喜びを知る」



徐 京植（そ きょんしく）現代法学部教授

教養講義科目「人権とマイノリティ」ほか担当。
早稲田大学第一文学部仏文学科卒業。作家として活躍後、
2000年度本学に着任。21世紀教養プログラムに携わる。
2015年度より教養講義科目「芸術学」を担当予定。

芸術に造詣が深い徐先生に、芸術や美術館の楽しみ方について語っていただきました

美術館に行ったことがありますか？—私はよく学生諸君にこう尋ねます。「ある」と答える人は多くありません。その度に私は、学生諸君がどれほど「美術」から隔てられているかを感じさせられ、「ああ、もったいない」と思うのです。

みなさんの多くは「美術」は高尚な「教養」であると思いを込んで、敷居が高いと感じているのではありませんか？「この絵はなに派なのか？」「これは有名な画家なのか？」そんなふうに「知識」や「教養」として美術に接することは、美術と対話することの妨げでしかない私は思っています。美術について誰かと会話する時、ある作品について「わたし、これが好き…」と口に出して、もし、「え、こんな絵が？」と返されると傷つきそうだし、だから、美術について語り合うのが億劫で、美術館に行くことが楽しくないのでしょうか。

でも、本来なら、美術作品に向い合うという行為は、もっとも「主観的である」ことが許されるのです。どんな大家の作品であろうと、つまらなければつまらない。反対に、誰も評価しない無名の作品でも好きなら好き。その主観性が誰にも非難されない世界です。自由でよいのです。自由に美術と対話すると、そこから、作者はもちろん、外国の人であれ、過去の人であれ、会ったこともないさまざまな人々との出会いが始まります。「自分にはこういう感性があったのか」と、自分自身を発見することにもなります。画家や時代背景についての知識を得るのはそうやって本当の興味がわいてからでよいのです。そうなると、知識を得れば得るほど、美術が面白くなります。美術はみなさんを「教養主義」的な先入観から解き放ち、自由な精神の喜び

を教えてくれるでしょう。そんな機会をみすみす逃したまま大学生活を過ごすなんて、ほんとうに、もったいないと思いませんか。

以下に、常設展示が充実しているところに絞って、私の「お薦めの美術館」を挙げてみます。

- 東京都内
国立西洋美術館（上野）、国立近代美術館（竹橋）
ブリヂストン美術館（大手町）
- 足をのばして訪ねる価値のあるところ
青春白樺美術館（山梨県北杜市）
信濃デッサン館・無言館（長野県上田市）
大原美術館（岡山県倉敷市）、ひろしま美術館

美術館にでかける時間のない人やおこづかいの足りない人は図書館にある画集や書物で美術と対話することも悪くありません。以下に私の「お薦めの美術関連書」を挙げておきます。

- お薦めの美術関連書
ケネス・クラーク『絵画の見かた』高階秀爾訳、白水社
堀田善衛『美しきもの見し人は』新潮文庫
窪島誠一郎『わが愛する夭折画家たち』講談社現代新書
坂崎乙郎『反体制の芸術』中公新書
高田博厚『分水嶺』岩波現代文庫

筆者（徐京植）は2015年度から本学で「芸術学」を担当する予定です。関心のあるみなさんが履修し、話しかけてくれることを期待しています。筆者の著書として以下のものがあります。

- 徐先生の「美術」に関するご著書（全て図書館に所蔵）
『私の西洋美術巡礼』みすず書房
『汝の目を信じよ—統一ドイツ美術紀行』みすず書房
『青春の死神—記憶の中の20世紀絵画』毎日新聞社



12/7（月）まで上野・東京国立博物館で「日本国宝展」を開催中ですが、国宝仏128件の96%は関西地方に集中しています。都内唯一の国宝仏「普賢菩薩騎象像」は、本学の創業者・大倉喜八郎による日本初の私立美術館「大倉集古館」（港区赤坂、改装のため休館中）に所蔵されています。



秋の読書特集「スポーツの秋」

遠藤 愛 准教授 「アスリートへの推薦本」

遠藤 愛 (えんどう まな) コミュニケーション学部准教授

「スポーツ B (テニス)」、教養講義科目「スポーツの科学」ほか担当。

元女子プロテニス選手。同世代の伊達公子、沢松奈生子、神尾米らと日本女子テニスの黄金期を築く。当時、現役を続けながら筑波大学大学院に進学し、コーチ学の研究に取り組んだ経験を持つ。世界ランキングの自己最高は26位(シングルス)。

体育会学生やスポーツに励むアスリートにも役立つ読書。 テニス部以外の方も、ぜひ。

島 泰三 著 (いずれも中公新書)

『親指はなぜ太いのか—直立二足歩行の起原に迫る』
『孫の力—誰もしたことの無い観察の記録』

デビッド・エプスタイン 著 (早川書房)

『スポーツ遺伝子は勝者を決めるか? アスリートの科学』



私の手は、ラケットを操り、20m先の狙った場所にショットを返球することができるように訓練されてきた。毎日毎日、自分の手でラケットを握り、ボールを追っかけ、自分の体と向き合いながらスポーツに打ち込んできた。その経験の中で、なぜ、私たち人間はこのようにスポーツに親しむことができるのか、さらにどのようにして運動を習得してきたのかについて興味を抱いたのも当然であったように思う。

そこで私が手に取ったのは、霊長類、特に、アイアイについて研究を進めている島泰三氏の著書『親指はなぜ太いのか』であった。この本を読んだのはもう10年近く前になる。この本を通して、「なぜ、ヒトが弱肉強食の世界を生き抜くことができたのか」から「私たちの手が球を掴み、絶妙のタイミングで放ることができるのはなぜか」までの氏の解説を読み、普段我々が何気なくやっている日常運動の中にヒトの持つ運動能力の可能性を発見した興奮を今も覚えている。

その後、氏は『孫の力』という自身の孫の成長を通してのヒトの成長についても著しており、こちらの著書も「じいじ」としての暖かい視点と研究者としての視点がうまく調和し、非常に面白かった。

次に挙げるのは、D. エプスタイン著の『スポーツ遺伝子は勝者を決めるか?』である。これは、さまざまな事例を挙げて優れたスポーツ選手は先天的か、後天的かについて言及していくものである。私自身も競技者育成に携わる中で、才能の必要性とともに、優れた選手を育成するための環境が必要不可欠であることを実感している。専門的な記述もあり難しいかもしれないが、興味ある箇所から読み進めていくと良いかもしれない。結局はこの本も先天的要因と後天的要因の重要性を唱えているものであるが、研究者が取り組むさまざまなテーマを紹介しているので興味深く読めるであろう。

最後に、全くスポーツとは関係ないが私が最近夢中になって読み進めた本を紹介したい。それは、イギリスの作家ネビル・シュートの『さすらいの旅路(Pied Piper)』である。これは、第二次世界大戦が勃発後、一人の老紳士が旅先のフランスの山村から母国イギリスまで、小さな子どもを連れながら次々に起こる障害や出来事を丁寧に解決して帰国を果たすまでの物語である。派手な描写はないが、しっとりとした感動があり、何気なく手に取ってから夢中になってしまった。もし機会があったら読んでみて欲しい一冊である。

5

ちょっと
豆知識

皆さんは武蔵村山キャンパスで授業を受けたことはありますか? 2015年度は、遠藤先生の「スポーツ B (テニス)」「総合教育ワークショップ (コーチング論)」、他教員の「スポーツの科学」を開講予定です。スクールバスも通っているので、ぜひ一度、村山校舎の授業を取ってみましょう!

経営学部 50 周年連動企画展

「東海道新幹線開業 50 周年 ～新幹線を通して日本を見てみよう～」

50 年前…大学生の皆さんの親世代が生まれた頃の日本。
当時の時代背景や現代への変遷について思いを馳せてみましょう。



榎 基宏 (えのき もとひろ)
経営学部准教授

教養講義科目「科学論」(宇宙観、原子論の変遷から見た科学の歴史)、「自然の構造」(物理学の基本)ほか担当。
大阪大学理学研究科宇宙地球科学専攻修了。専門は天文学、宇宙物理学。



写真提供：裏辺研究所

今年、本学経営学部 50 周年ですが、同時に、東海道新幹線開業 50 周年でもあります。1964 年 10 月、東京オリンピックが開催されました。それと同時に開業した東海道新幹線は、当時としては画期的な様々な技術を用いて開発された、世界に他に類を見ない鉄道システムです。東海道新幹線開業で、東京と大阪の所要時間は、最速の列車で 6 時間 30 分だったものから、一気に 4 時間へと短縮されました(現在は最速の列車で約 2 時間 30 分)。この新幹線の開業は、日本のビジネスや旅行文化のあり方を変えてしまうほど、社会に大きな影響を与えるものでした。

そこで、今回、新幹線の歴史や技術開発について学び、新幹線が与えた経済的・社会的影響を考えることができる図書やビデオを集めて展示を行います。「新幹線」を通して、技術開発のありかたや、ここ 50 年の日本の社会、歴史、経済について考えてみる機会になると思います。

また、今年、本学のある国分寺市の市制 50 周年でもあります。実は、国分寺は新幹線と密接な関係があります。新幹線に使われている様々な技術の基礎は、国分寺市光町にある国鉄の鉄道技術研究所(現在の JR の鉄道総合技術研究所)で開発されました。この「光町」という地名は、この研究所で新幹線「ひかり号」が開発されていたことにちなんで名づけられました。今回の展示では、この鉄道技術研究所の歴史についての書籍も展示します。加えて、新幹線建設に活躍した大成建設の土木技術史の書籍の展示も行います。(11 月上旬より展示開始予定)

● 榎准教授以外の本展示の選書メンバー

青木亮教授(経営学部・「交通論」ほか担当)、柴田高教授(経営学部・「経営戦略論」ほか担当)、渡邊尚元教授(京都大学名誉教授)

50 年間の主な出来事

(本学・新幹線関連を中心に)

- | | |
|------------|--|
| 1964 (S39) | 4 月: 本学経営学部開設
10 月: 東海道新幹線開業
10 月: 東京オリンピック開幕
11 月: 北多摩郡国分寺町、市制施行 |
| 1966 (S41) | 村山運動場開設(現・武蔵村山校舎)
4 年制大学の学生数が 100 万人を突破 |
| 1968 (S43) | 図書館竣工(現・大倉喜八郎進一層館)
府中市で三億円強奪事件発生 |
| 1972 (S47) | 山陽新幹線新大阪～岡山間開業
沖縄が日本に返還(沖縄県誕生) |
| 1975 (S50) | 葵陵会館・第一学生会館竣工
山陽新幹線岡山～博多間開業 |
| 1977 (S52) | 特修コース開設(現・CSC)
テレビの完全カラー放送化 |
| 1982 (S57) | 第 1 回国分寺市民大学講座開講
東北・上越新幹線開業 |
| 1983 (S58) | 入試広報誌『SPACE』刊行開始
東京経済大学父母の会発足
東京ディスニーランド開園 |
| 1987 (S62) | 学校見学会(現・オースンキャンパス)開始
国鉄民営化、JR グループ 6 社が発足 |
| 1992 (H4) | 東京～大阪間「のぞみ」運転開始
EU 成立(マーストリヒト条約調印) |
| 1995 (H7) | コミュニケーション学部開設
阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件 |
| 1997 (H9) | 長野新幹線開業
香港が中国に返還される |
| 1998 (H10) | 経営学部流通マーケティング学科開設
長野冬季オリンピック開催 |
| 2000 (H12) | 現代法学部開設
沖縄サミット開催 |
| 2002 (H14) | 経済学部国際経済学科開設
東北新幹線 盛岡～八戸間開業
日韓共同開催のサッカー W 杯開幕
EU の単一通貨ユーロの市中流通開始 |
| 2004 (H16) | 21 世紀教養プログラム開設
九州新幹線 新八代～鹿児島中央間開業
国立大学法人化 |
| 2010 (H22) | 東北新幹線 八戸～新青森間開業
小惑星探査機はやぶさ、地球に帰還 |
| 2011 (H23) | 九州新幹線 博多～新八代間開業
東日本大震災 |

ちょっと
豆知識

その他の本学経営学部と同期生(満 50 歳)の方々をご紹介します!
東京モノレール/日本武道館/テレビ東京/カルビーかっぱえびせん/ワンカップ大関
味ぼん/マロニー/よみうりランド(稲城市)/ホテルニューオータニ etc...

6

イベント案内

読書会スケジュール

読書会とは、あらかじめ決められた「お題本」を読み、読んだ感想をみんなで話し合っ楽しむ集まりのことです。今後の開催予定はこちら↓

- 11/14 (金) 5限 菊地建至 先生 (ゲストファシリテーター)
思想を読む2：ニーチェ『喜ばしき知恵』
- 11/27 (木) 5限 新正裕尚 先生
伝記を読む：星新一『人民は弱し 官吏は強し』
- 12/16 (火) 5限 高津秀之 先生
思想を読む3：東浩紀『動物化するポストモダン』
- 1/13 (火) 5限 相澤伸依 先生
マンガで読書女子会 (女子学生限定)：
安彦麻理絵『コンナオトナノオンナノコ』

会場はいずれも図書館。参加希望者は図書館2階カウンターまで。

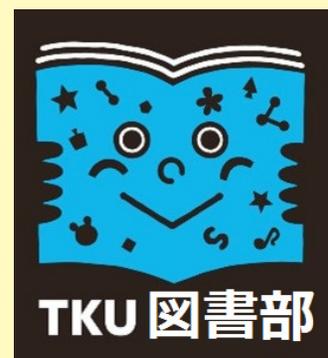


注目イベントスケジュール

読書会以外の図書館イベントと、学内の注目イベントを紹介します。詳しい情報は図書館サイトやTKUポータルで確認してください。

- ～11/21 (金) 図書館写真コンテスト投票期間
- 11/ 5 (水) PM 経営学部「演習 (ゼミ)」説明会【学務課】
- 11/ 6 (木) PM 国立国会図書館見学ツアー
- 11/15 (土) PM コミュニケーション学部ゼミ報告会【学務課】
- 11/19 (水) PM 経済学部・総合教育演習ゼミ説明会【学務課】
- 11/19 (水) PM ゼミナールオリエンテーション【ゼミナール連合会】
- 11/22 (土) PM 神田神保町古本屋ツアー
- 12/ 3 (水) PM 国立国会図書館 国際子ども図書館見学ツアー
- 12/13 (土) PM 外国人留学生スピーチコンテスト【国際交流課】
- 12/13 (土) PM 経営学部・総合教育演習ゼミ報告会【学務課】
- 12/17 (水) PM 経済学部・現代法学部ゼミ報告会【学務課】

図書部 Twitter では、図書部の活動情報、学内のイベント情報、本や映画の紹介などを配信しています。
@tku_toshobu をチェック!



図書部サポーター募集!

図書部では学生サポーターを募集しています。主なお仕事はこちら!

- ①企画展示の設営準備
 - ②読書会や図書館見学等のイベントへの参加&レポート
 - ③当『図書部だより』への寄稿
- ※一部のみ参加も OK

ボランティアとして、本好きの仲間たちと楽しく交流できます。

希望者は図書館カウンターまたは library@s.tku.ac.jp (件名: 図書部サポーター応募) へ!



過去の企画展示の様子

今後の発行スケジュール

『図書部だより』は、図書館に関する情報提供及び学内のコミュニケーション向上を目的として、年4回の季刊発行を予定しています。

「こんな企画をやってほしい」「大好きな本を紹介したい」「インタビューに来てほしい」という学生・教職員の方は、各号の発行の2ヵ月前頃までに図書部員までご連絡ください。

- | | |
|-------------------------|--------|
| <発行時期> | <主な企画> |
| 冬号 (1月中旬) ……ゼミ選び、就職活動 | |
| 春号 (3月下旬) ……新入生歓迎、語学学習 | |
| 夏号 (7月中旬) ……海外旅行&留学 | |
| 秋号 (10月下旬) ……読書&芸術&スポーツ | |

教育改革支援制度 (進一層トライアル) 採択事業

『TKU LIBRARY NEWS (図書部だより) vol.3』2014年10月発行

発行元/東京経済大学 図書部 図書部員: 相澤伸依、新正裕尚、野田淳子 (以上、経営学部専任教員)

鴨下彰子、小川紀子、清原文 (以上、図書課)

網中真志 (学生課)、田中理沙 (学務課)、角田浩司 (情報システム課)